

令和3年3月25日

養父市議会議長 西 田 雄 一 様

予算特別委員会

委員長 藤 原 芳 巳

予算特別委員会審査報告書

令和3年2月26日、本委員会に付託された事件は審査の結果、下記のとおり決定したので、養父市議会会議規則第101条の規定により報告します。

記

1 審査年月日

令和3年3月3日(水)・4日(木)・8日(月)・9日(火)・11日(木)

2 審査結果

議案番号	事 件 名	審査結果
議案第4号	令和3年度養父市一般会計予算	原案可決すべきもの
議案第5号	令和3年度養父市国民健康保険特別会計予算	原案可決すべきもの
議案第6号	令和3年度養父市養父歯科診療所特別会計予算	原案可決すべきもの
議案第7号	令和3年度養父市後期高齢者医療特別会計予算	原案可決すべきもの
議案第8号	令和3年度養父市介護保険特別会計予算	原案可決すべきもの

議案番号	事 件 名	審査結果
議案第9号	令和3年度養父市水道事業会計予算	原案可決すべきもの
議案第10号	令和3年度養父市下水道事業会計予算	原案可決すべきもの

3 審査意見書

別紙のとおり「令和3年度予算に対する意見」を付する。

令和 3 年度予算に対する意見

第 105 回定例会
令和 3 年 3 月 25 日

予算特別委員会

1 総括的事項

予算特別委員会は、3月3日から11日までの間、付託された令和3年度一般会計、4特別会計及び2企業会計の総額316億7,830万円の当初予算について、慎重に審査を行った。

まず、一般会計の歳入歳出予算総額は197億3,000万円で、令和2年度当初予算の207億2,000万円より9億9,000万円減少している。

歳入の概要は、市税、使用料及び手数料、繰越金、諸収入などの自主財源が52億7,456万円(26.7%)で、地方交付税、市債、国・県支出金などの依存財源が144億5,544万円(73.3%)と極めて高い状況にある。また、地方交付税は89億円で、令和2年度より1億円の増額を見込んでいる。

一方歳出は、人件費、公債費及び扶助費の義務的経費が73億5,693万円(37.3%)、また、普通建設事業費などの投資的経費が31億9,837万円(16.2%)、補助費、繰出金、物件費など、その他経費が91億7,470万円(46.5%)となっている。

特記すべきは、令和3年9月にグランドオープンを控えた文化会館等建設事業費15億5,450万円、定住化の促進を図る宅地開発支援事業2,500万円、森林整備を加速させる森林環境譲与税関連事業6,021万円、0～2歳児の保育料無償化とこれに加えての子育て応援給付金2,248万円、新型コロナウイルスワクチン接種関連事業8,592万円である。

また、令和3年度末における全会計の地方債残高は、272億7,816万円であり、財政調整基金、減債基金、特定目的基金などの基金総額は、138億3,714万円が見込まれている。

市政テーマは、「市民総活躍による まち・ひと・しごと・ふるさとの創生～大胆な挑戦から、確かなイノベーションを～」とし、市政運営の基本方針において、新型コロナウイルス感染症から市民を守り、安心できる暮らしを取り戻すため、感染予防と感染拡大の防止に努め、コロナ禍で落ち込んでいる地域の事業者支援と経済活性化、市民生活の支援に全力で取り組むとしている。「まちづくりの3つの柱」は、養父市日本一へのまちづくり宣言条例で宣言した、「日本一農業をしやすいまち」、「日本一子育てをしやすいまち」、「日本一福祉が充実したまち」としている。

健全財政の下、養父市が真に持続可能なまちへと進化を遂げ、やぶ市民交流広場を中心とした文化と芸術に溢れた、居心地の良いまちづくりが進展することを期待するものである。

2 個別的事項

【 議案第 4 号 令和 3 年度養父市一般会計予算 】

- (1) やぶ市民交流広場は複合施設としての機能を十分に発揮し、市全体の文化・芸術施策、市民文化団体の拠点として、また、小・中の児童生徒、高校生のコミュニケーション教育に資する存在となるよう取り組まれたい。
- (2) 地域公共会社の経営にあたり、市は株主として、会社の使命や活動範囲を定めた経営指針を示すことが必要である。その上で、会社の存在にふさわしい内容の中長期的な計画を令和 3 年度中に策定し、地域創生の推進役を担う存在となるよう努められたい。
- (3) 文化会館等建設事業における CM 業務については、管理体制や工期の遅れへの対応等、CMR の関与する仕事の責務及び技術系職員の配置の必要性について検証を行い、今後の事業に反映されたい。
- (4) 関宮地域局周辺の整備については、事業の予定が少しずつ遅れている。過疎対策における小さな拠点のモデルとして、スピード感を持って進められたい。
- (5) 人口減少や少子化の一因となっている晩婚化・未婚化に対する結婚応援施策については、民間の知恵を借りながら、強力に進められたい。
- (6) 社会福祉協議会の事業に対しては、市と社協の双方が共通認識の下に事業を再構築し、時代に合った支援を進めることで、市民福祉の向上に努められたい。
- (7) 景観形成推進事業においては、旧グンゼ八鹿工場事務所棟・宿泊棟改修工事の耐震化対策を十分に図り、施設の安全性の担保を図られたい。
- (8) 地籍調査事業は、各集落で事前調査の協力を得ることや、リモートセンシング技術の活用など、あらゆる手段を用いて早期完了を図られたい。
- (9) 都市部の事業所や個人に向けた農産物の販路拡大、地産地消・地産都消の取り組みについて、シルバー人材センターのネットワークを活用し、今

後さらなる推進・拡大に努められたい。

- (10) 市内で開催される花火をメインとしたイベントの開催にあたり、安全確保の課題が大きく浮上している。雑踏警備等について新たに予算計上されているが、今後とも必要に応じて、各地域の主催者と協議を図り、適切な対応に努められたい。
- (11) GAP・有機JASの取得や、有機栽培、無農薬・減農薬栽培など、食の安全性にこだわる養父市農業の方向性を明らかにし、効果的に発信することで、新規就農者への呼びかけとともに移住・定住の成果にもつなげられたい。
- (12) 6次産業化支援センターは設置から5年が経過し、多くの課題が浮き彫りになっている。今後は、新しい企業の育成施設という枠にとらわれず、地方創生に役立つセンターとしての幅広い活用を図られたい。
- (13) 土曜学習教室については、趣旨を踏まえた制度設計を行い、子供たちにとってより豊かで有意義な校外学習の機会を実現されたい。